

第9回

日本通所ケア研究大会

合同開催 第7回 認知症ケア研修会 in 福山

日程 平成23年11月26日(土)～27日(日)

会場 広島県福山市(リーデンローズ、アルセ、まなびの館ローズコム)

大会会長 妹尾弘幸(日本通所ケア研究会 会長)

主催 日本通所ケア研究会・福山認知症ケア研究会

後援 福山市 福山市社会福祉協議会 日本認知症ケア学会
社団法人日本介護福祉士会 社団法人日本社会福祉士会
社団法人広島県介護福祉士会 NPO法人広島県介護支援専門員協会
独立行政法人福祉医療機構 中国新聞備後本社
エフエムふくやま 社団法人東京都理学療法士会

大会ホームページ <http://www.ec-knt.jp/tsuusho2011/>

これからの新しいデイ
地域包括ケアの中でのデイの役割

一般演題発表

発表テーマ **介護予防・リハビリ**

【日時】 11月26日(土) 【会場】 ローズ (アルセ1F)

【座長】 フェルデンクライス岡山 代表 **森近 貴幸氏**

NO	氏名	施設名	発表テーマ
1	北村 洋恵 芳澤菜緒美	デイケアセンターグレイスフル下諏訪	全ての道は、リハビリに続く！！ ～利用者様の自主性を尊重して～
2	武内 元	城西神経内科クリニック	短時間通所リハビリテーションの意義について ～アンケートを実施し感じたこと～
3	鈴木 明廣	医療法人博仁会 フロイデ 総合在宅サポートセンター水戸河和田	施設全体がリハビリの場 ～「リハビリ機能強化型デイ」の挑戦～
4	小林 学	医療法人博仁会 大宮デイケアセンター	介護職がリハビリ！？～リハビリアシスタントへチャレンジ～ 通所リハにおいて新たなリハビリの取り組み
5	林 勢津子 田中 未奈	社会福祉法人北丹後福祉会 久美浜デイサービスセンター	地域支援事業に携わって～地域と介護サービスとの架け橋～
6	齊藤 美鶴	恩田メディカルクリニック デイケア	特定高齢者の向上心を引き出す体操教室を実施して ～医療連携による独自の生活安心ネットの構築～
7	細野 健太	福原リハビリテーション整形外科・内科医院	介護予防教室で身体機能の向上を目指した 3ヶ月間の取り組み
8	梅村外志江	医療法人博友会 金沢西病院 金沢西デイケアセンター	要支援者様における転倒予防意識向上への試み ～転倒予防川柳を実施して～
9	木村 佳代 原 真弓	医療法人社団 らぼーる新潟 楽いちデイサービス	通所介護施設における作業活動の現状と課題 ～アンケート調査から今後の方向性を考える～



会場に設置されている
演題テーマは私が
書きました！

一般演題発表
アルセ(ローズ)

通所介護施設における作業活動の現状と課題

～アンケート調査から今後の方向性を考える～

医療法人社団 らぼーる新潟 楽いちデイサービス
木村 佳代 (SW)
原 真弓 (CW)

キーワード：作業活動、アンケート調査、園芸

【はじめに】

当施設では、午後1時から3時までを個人活動の時間として、個々の能力や希望に合わせて運動や作業活動を行っている。しかし、作業活動のマナー化で、活動実施者が限られ、手芸などひとりで行なう作業が多く、利用者間の交流が少なく、何もせず時間を有意義に使えていない人が多い。

新しい作業活動を提案することで、活動意欲が向上し、一日過ごして楽しかったと思えるような施設を目指したいと考え、今回、利用者の現状と興味を把握するためにアンケート調査を実施した。

【対象・方法】

全利用者152名のうち、同意が得られた126名（男性55名、女性71名）に職員が直接聞き取り調査を行なった。認知機能面の低下が認められる方は対象外とした。

○アンケート内容（複数回答可）

(1)「現在、楽いちデイサービスで実施している作業・趣味活動はありますか？」
選択肢は、「手芸・折り紙・ぬりえ・囲碁・将棋・オセロ・麻雀・カラオケ・その他・なし」

(2)「下記の活動の中で興味・関心のある活動はありますか？」
選択肢は、「陶芸・書道・生け花・茶道・手工芸・農作業・園芸・体操・スポーツ観戦・ゲーム・健康講座などの受講・その他」

【結果】

現在、作業活動実施者は85名（67%）、作業活動未実施者は41名（33%）だった。実施者の活動内容は、男性は囲碁や将棋などが多く、女性は手芸活動が多かった。

興味・関心のある活動は、園芸が36名と最も多かった。次いで、書道が26名、手工芸が18名、スポーツ観戦が18名であった。

【考察】

今回の結果から、作業活動未実施者は全体の3割と多い結果だった。

未実施者の様子を見ると、運動を目的として当施設を利用している人、移動や移乗に介助が必要で決められた運動に時間がかかり作業活動を行う時間が無い人、病気により上手く作業が出来ず自信をなくしている人が多かった。

興味・関心がある活動は、園芸や書道など多岐にわたっていたが、ひとりで行なう活動ではなく、交流しながら行なえる活動であることから、園芸を取り入れていきたいと考えた。

利用者全体に園芸に興味・関心が高かったことは、新潟という土地柄、農業や畑仕事などの経験をしている人が多く、利用者にとって馴染み深い作業だと考えられた。

園芸を取り入れることで、考えられる効果として、昔からの慣れた作業で、自信がない人でも参加しやすい。収穫など将来を期待する作業であり、生きがいとなる。直接作業活動に参加しなくても、植物や野菜の成長を見ることで精神的安楽を得ることができる。場を共有することで、会話のきっかけとなることが期待できる。

プランターを利用者で少しずつ管理していくことから始め、植物の種類や配置決めなど自主的な活動となるよう進めていきたい。また、利用者の楽しみや役割の発見、意欲向上に繋がっていくことを期待したい。